

森と水と暮らしとの会議 報告書

1. 日 時 令和6年4月24日（水）午前10時～午前11時20分

2. 場 所 中能登町役場総務庁舎2階大会議室

3. 出席議員 笹川議長、甲部議員、林議員、古玉議員、澤議員、池島議員、
角議員、合田議員、三浦議員 9名

4. 対象団体 森と水と暮らし 代表 須藤雅彦氏ほか4名

5. テーマ 風力発電の建設と町民の安全について

6. 実施内容

笹川議長、森と水と暮らし代表者のあいさつ後、意見交換を行った。

下記のような意見が出された。

【団体からの意見】

①震災を受けて珠洲等に行き来し、気が付いたことがあった。

道路の橋脚の箇所は比較的大丈夫だが、「盛土」の部分にダメージがあるように感じた。福井今庄の山間部でも豪雨災害で林道も盛土部分が崩れ、災害をもたらしている。山を「触る」のは危険である。

資料（読売新聞オンライン）を基に、能登半島地震で太陽光発電に損害が出たが、設置事業者は「直後に転売したのでわからない。」との見解でとても不安になった。

②農家は苦勞して作った作物を少しでも「高く」売りたい。

そのためには「情報発信」知ってもらうことが大切である。能登の魅力（ブランド）を発信。そのシンボルが「朱鷺」である。朱鷺が生息できるとブランドアップできる。＝「高く」売ることができ、次世代へ持続可能となり定住・移住につながる。その朱鷺と現在計画が進んでいる「風力発電」は両立できるのか？という疑問がわく。

③石動山は寺院の歴史が深く、多くの薬草（漢方）が栽培され、富山の薬（置き薬）に繋がっている。また石動山は「石が動く」山として、昔から「崩れやすい山」として警戒を忘れないように名付けられている。

計画されている風力発電で出される土砂運搬量は熱海の崩れた盛り土とほぼ同じ量である。

また、サラサラな砂、粘土、珪藻土等である。このような情報をなぜ公にしないのか。

④着々と計画は進んでいて公的な発表や説明がないまま、今年度5月に着工される。

ケーブル移設云々の件も3月議会で取り上げられたが、町民の皆さんに知らされていないのが現状。町民に向けての説明会、また議員報告会という形でもよいから開催していただきたい。

また、町の担当者に現地を案内してもらい実際に確認していただきたい。

⑤震災を経験したことで「事業をいったんストップしてほしい。」

もう少し調査、議論する時間が必要であると思う。

ぜひ議会で検討していただきたい。

【議員からの意見】

①石動山は崩れやすいと聞いている。石動山系では「ブルドーザー1台で道が作れる」と言われているほど地盤がもろいと言われているところに建設されるのは不安で仕方がない。

②共生という観点から、人類が登場して46億年。進化論的にも人類がその頂点にいるが、人類の都合で判断していくのは危険であり破壊されていく。電力は必要だが、どこまで必要でどれだけ不足しているのか検証する必要がある。

③原子力、水力、火力等エネルギーを確保していかなければならない。勉強し判断していきたい。

【議員と団体とのやり取り】

議員①洋上風力は10～20キロ離れているが、風力発電どのくらいの距離があれば安全か。

団体①離れているに越したことはない。洋上風力は、海外特にヨーロッパでは遠浅な海で比較的建設は可能だが、日本ではどうかという認識があると聞いている。

議員②街づくりという観点から「風車」か「朱鷺」かというのは、わかりやすいと思われる。再度、団体からの認識を聞きたい。

団体②佐渡には風力発電はない。風力で農業は成立しない。自然に対し、危害を加える側にいたくない。

朱鷺に関し、能登全体で考える必要がある。朱鷺だけではなく、猛禽類にも大きな影響が出ると予想される。